

1 項目別評定 【第三期中期目標期間(平成28年度～令和2年度)】

評定	評語	第三期中期目標期間見込(案)	
		項目数	割合
S	目標の達成状況が極めて良好	2	8%
A	目標の達成状況が良好	13	54%
B	目標の達成状況が概ね良好	9	38%
C	目標の達成状況がやや不十分	0	0%
D	組織、業務等に見直しが必要	0	0%
項目数計		24	100%

令和元年度(案)		平成30年度		平成29年度		平成28年度	
項目数	割合	項目数	割合	項目数	割合	項目数	割合
3	12%	3	12%	2	8%	3	12%
11	46%	11	46%	12	50%	10	42%
9	38%	10	42%	10	42%	11	46%
1	4%	0	0%	0	0%	0	0%
0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
24	100%	24	100%	24	100%	24	100%

2 業務実績評価(案)

(1) 全体評価

中期計画の達成に向け、『優れた業務の達成状況にある』

高く評価すべき事項

- ・ 成長が見込まれる環境や医療などの重点技術分野を設定し、そのテーマに基づき基盤研究を着実に実施するとともに、研究成果が中小企業との共同研究などの取組へと展開
- ・ 3Dものづくりセクターをはじめとして、各セクターの特色を生かし、中小企業の多様なニーズに対応

改善・充実を求める事項

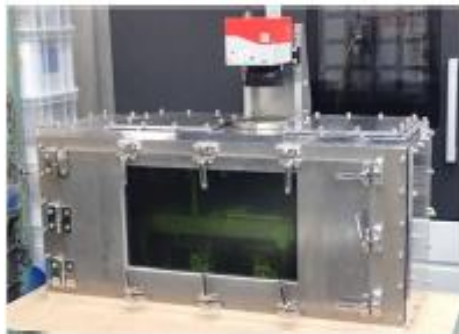
- ・ 新型コロナウイルス感染症を契機として都産技研のデジタル化を進めるとともに、新たな需要獲得に向けた中小企業の実績を支援することを望む。

基盤研究

◆ 中期計画：基盤研究の成果を中小企業への技術支援や共同研究等に発展

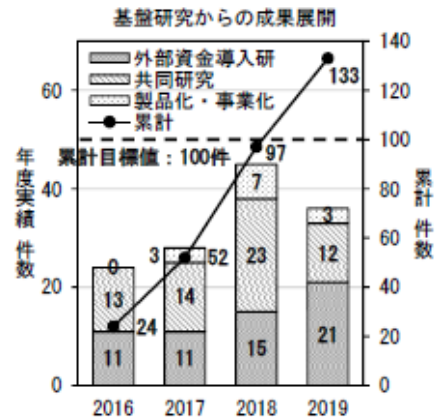
- 第三期中期計画目標値を上回る実績を達成
基盤研究の成果を基に、製品化・事業化等に至った件数133件（目標値100件）
- 重点的に取り組むとした技術分野への支援
4つの重点技術分野については、基盤研究301件のうち、257件を実施
- 基盤研究制度改革を実施
所管部長の権限強化など、研究を促進させる取組を実施

⇒ 様々な制度改革により基盤研究の量的・質的向上に取り組み、実績を上げていることを高く評価



【産技研が作成した評価用AM】

※AM：Additive Manufacturing(積層造形)



【成果展開実績】

- 4つの重点分野
- 環境・エネルギー
 - 生活技術・ヘルスケア
 - 機能性材料
 - 安全・安心

ロボット産業活性化事業

◆ 中期計画:ロボット産業の活性化に向け、共同研究等により事業化を推進

- 中小企業等との公募型共同研究の実施による製品化・事業化
警備ロボットなど、29件の製品化・事業化を達成
- ロボット産業人材育成や社会実装を見据えた試験運用の実施
S I e r 人材育成や東京ビッグサイトにおける長期のトライアル運用を実施
※S I e r : システムインテグレーター(System Integrator)の略

⇒ 中小企業等の製品化・事業化支援に加え、社会実装に向けた支援まで実施していることを評価



【警備監視ロボット】



【東京ビッグサイトにおける試行運用】

3Dものづくりセクター

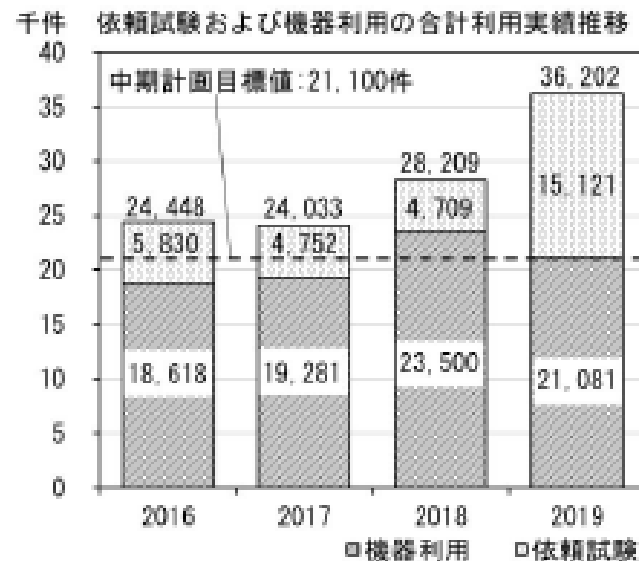
◆ 中期計画：AM技術等を活用した製品開発を総合的に支援

- 第三期中期計画目標値を上回る高水準の実績を達成
中期計画目標値21,100件に対し、2019年度36,202件
- AM技術を活用した製品開発支援
AM技術やリバースエンジニアリング技術の活用により、中小企業の製品化プロセスの短縮に寄与

⇒ 中期計画目標値を大幅に越える高い支援実績を高く評価



【スポーツ義足用高機能アダプター】



【利用実績】

3 第三期中期目標期間の終了時に見込まれる業務実績評価案に関する試験研究分科会の意見

1. 総評としての意見

「優れた業務の達成状況」であると認められる。

2. 留意点（項目別評価に関する意見）

- ・プラスチック代替製品の開発等、SDGsに資する施策に引き続き取り組むことが期待される。
- ・ポストコロナ社会におけるロボット等の非接触技術の重要性が増すことが予想されることから、一層取組を推進することが期待される。
- ・3D造形技術の分野は、技術進歩が急速であり、今後も技術研究レベルの向上等に注力すべきである。

3. 第四期中期目標期間の取組へ要望

・ポストコロナ社会の状況を踏まえ、支援のデジタル化・オンライン化を一層進めていくことが望まれる。